



コミュニケーション学院

コース案内・入学手続き

コミュニケーション学院の日本語コースは、あなたの目的に合わせて7つのコースから選べます。授業見学も随時受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。

❖**授業時間** ※初日のレベルチェックと面談によりクラスが決まります。

午前クラス(上級・ビジネス)	月 ~ 金	09:00 ~ 12:50 (50分×4コマ)
午前/午後クラス(中級)	月 ~ 金	11:00 ~ 15:20 (50分×4コマ)*
午後クラス(初級)	月 ~ 金	13:30 ~ 17:20 (50分×4コマ)

*昼休み：12:50~13:30

❖**コース**

長期コース(留学ビザ)	
1. 言語研修・大学/専門学校進学 コース	6ヶ月~2年
2. 大学院進学 コース	6ヶ月 or 9ヶ月
3. 基礎/実践ビジネス日本語 コース	各6ヶ月

短期コース(ビザ不問)	
4. 短期語学研修 コース	1ヶ月~3ヶ月
5. ビジネス日本語/ビジネスマナー短期集中 コース	3ヶ月
6. サマーコース *詳細は別紙ご参照ください	1週間~1ヶ月
7. ウィンターコース *詳細は別紙ご参照ください	1週間~1ヶ月





1. 【長期】 言語研修・大学/専門学校進学 コース (6ヶ月～2年 / 留学ビザ)

◆ コース概要

日本の高等教育機関への進学や語学研修のみを目的とした長期コースです。学習期間は6ヶ月から2年まで自身で選ぶことができます。入学時期は4月・7月・10月・1月です。

◆ 特徴

- 日本語で「自分らしさ」を表現できるコミュニケーション能力。コミュニケーション学院ではそれを大切にしています。初級段階から、教科書どおりの表現を学ぶだけでなく、自分が自分らしくあるために、**言いたいことを日本語で自分らしく言える力**を養います。
- 日本語のコミュニケーションでは、場面と言語の(文法的/音声的)「正確さ」と「流暢さ」の両方が重要です。その両方を含んだ「適切さ」を養います。
- 進学コースの中上級クラスからは、大学院・大学で学習や研究をするために必要な日本語の力をつけます。単なる受験対策ではなく、**大学での留学生生活を十二分に行える力**をつけます。
- 進学後に学習や研究活動がスムーズにできるように、**自律学習の力**を身につけます。自分でテーマを決め、計画を立てて進めるゼミ形式の授業もあります。コミュニケーション学院の教職員全員が、授業はもちろん、**学生生活の全ての面で自律的な行動を促すサポート**を行います。

2. 【長期】 大学院進学 コース (6ヶ月 or 9ヶ月 / 留学ビザ) ※編入可

◆ 特徴

- 個別指導による大学院受験のための研究計画書作成
- 創立(1988年)からのコミュニケーション学院ネットワークを生かした研究科紹介
- 大学院進学後の研究活動を日本語でこなせる【アカデミック・ジャパニーズ】の養成

◆ 対象 ・ 母国で4年制大学を卒業した者(要 学士号) / ・ 日本語能力試験 N2 級程度取得者

◆ 募集人数 ・ 7月期生(9ヶ月コース) - 5名 / ・ 10月期生(6ヶ月コース) - 5名

3. 【長期】 基礎/実践ビジネス日本語 コース (各6ヶ月 / 留学ビザ)

◆ 特徴

- ・ 講師 : ビジネス講師と日本語教師の豪華教師陣!
- ・ 教材 : 3レベル対応の本校オリジナル・ビジネス日本語教科書を使用!
- ・ 職場体験 : 企業でのインターンシップを紹介!
- ・ 進路指導 : 教師と二人三脚で個人別の進路設計を実施!
- ・ 実績 : 日本国経済産業省ビジネス日本語・日本ビジネス委託実施校
国立大阪大学、国立奈良女子大学等でビジネス日本語講座実施

◆ コース概要



- ・ 基礎ビジネス日本語コース(6ヶ月・4月/10月開講)
 - N3級～
 - 中級日本語コミュニケーション>基礎ビジネスコミュニケーション&基礎ビジネスマナー
- ・ 実践商務日本語課程(6ヶ月・4月/10月開講)
 - N2級～
 - 応用ビジネスコミュニケーション&応用ビジネスマナー>上級日本語コミュニケーション





4. 【短期】短期語学研修 コース(1ヶ月～3ヶ月 / ビザ不問)

◆ 特徴 — 総合的な日本語コミュニケーション能力の育成

1. 日本語で「自分らしさ」を表現できるコミュニケーション能力。コミュニケーション学院ではそれを大切にしています。初級段階から、教科書どおりの表現を学ぶだけでなく、自分が自分らしくあるために、言いたいことを日本語で自分らしく言える力を養います。
2. 日本語のコミュニケーションでは、場面と言語の(文法的/音声的)「正確さ」と「流暢さ」の両方が重要です。その両方を含んだ「適切さ」を養います。

◆ レベル 基礎～上級(*長期コースクラスへの編入となります)

◆ 入学時期・期間(2018～2019年)

*申込締切：コース開始2週間前

入学日	60コマ (約1ヶ月)	120コマ (約2ヶ月)	180コマ (約3ヶ月)
4/4	～ 4/26	～ 5/22	～ 6/15
6/28	～ 7/23	～ 8/27*	～ 9/21*
10/4	～ 10/29	～11/19	～ 12/14
1/8	～ 1/31	～2/22	～ 3/20

*8/4～8/19：夏休み

◆ 申込書類 入学願書・調査表・顔写真(3枚)・パスポートコピー

5. 【短期】ビジネス日本語/ビジネスマナー短期集中 コース(3ヶ月 / ビザ不問)

◆ 特徴

- ・ 基礎的なビジネス日本語の習得
- ・ 日本のビジネス文化(企業文化・ビジネスマナー)の習得
- ・ 交流日本語会話(会社での日本語コミュニケーション)の習得
- ・ BJT(Business Japanese Test)J2 取得を目指す

◆ 対象

- ・ 日本での就職を望む外国人
- ・ 帰国後母国の日系企業に就職を望む外国人
- ・ 日本語能力試験 N2 程度取得者

◆ 課程詳細/2018～2019

*申込締切：コース開始1ヶ月前

開講期間	4/4～6/15	6/28～9/21*	10/4～12/14	1/8～3/20
募集人数	15名	15名	15名	15名

*8/4～8/19：夏休み

◆ 申込書類 入学願書・調査表・顔写真(3枚)・パスポートコピー





学 費

【長期コース】

1. 言語研修・大学/専門学校進学 コース 2. 大学院進学 コース 3. 基礎/実践ビジネス日本語 コース			
	出願時	入学時(6ヶ月分)	継続(6ヶ月分)
審査料	¥ 30,000	—	—
入学金		¥ 60,000	—
授業料		¥ 335,000	¥ 335,000
設備費		¥ 10,000	¥ 10,000
活動費		¥ 7,500	¥ 7,500
合 計		¥ 412,500	¥ 352,500

*教材費・保険料は別納です。(教材費: 7,000~10,000 円/3 か月)

*短長期割引: 短期3か月+長期(6か月以上)コースお申し込みの場合、入学金を半額に減免。

【短期コース】

4. 短期語学研修 コース 5. ビジネス日本語/ビジネスマナー短期集中 コース			
	60コマ/約1ヶ月	120コマ/約2ヶ月	180コマ/約3ヶ月
登録料	¥ 10,000	¥ 10,000	¥ 10,000
授業料	¥ 70,250	¥ 123,250	¥ 176,250
設備費	¥ 3,000	¥ 4,000	¥ 5,000
活動費	¥ 1,750	¥ 2,750	¥ 3,750
合 計	¥ 85,000	¥ 140,000	¥ 195,000

*Working holiday ビザをお持ちの方は登録料を免除します。

*教材費は別納です。(7,000~10,000 円/3 か月)

《留学生保険費用》

期間	1 年	9 ヶ月	6 ヶ月	3 ヶ月
金額	¥ 9,900	¥ 8,700	¥ 7,400	¥ 4,200

※留学ビザの学生は別途「国民健康保険」にも加入しなければなりません。

銀行口座情報

東京三菱 UFJ 銀行 三宮支店 普通口座 1104182 コミュニカガクイン





1. 【長期】 語学研修・大学/専門学校進学 コース
2. 【長期】 大学院進学 コース
3. 【長期】 基礎/実践ビジネス日本語 コース

留学ビザ取得コース入学手続き案内

✓入学時期 / 資料提出期限等

✓入学時期	春 (4月)	夏 (7月)	秋 (10月)	冬 (1月)
✓開講コース/期間 1.: 語学研修・進学 2.: 大学院 3.: ビジネス日本語	1. ~2年 3. 6ヶ月	1. ~1年9カ月 2. 9ヶ月	1. ~1年6カ月 2. 6ヶ月 3. 6ヶ月	1. ~1年3カ月
✓提出申請資料期間	~ 11/30	~ 3/31	~ 5/31	~ 9/30
✓交付在留資格認定 証明書の時期	2月下旬	5月下旬	8月下旬	11月下旬
✓入学式 (2018-2019)	4/4	6/28	10/4	1/8

❖出願から入学まで

- 1) 入学希望者に対し申請書類により学内審査を行います。
*必要に応じて現地面接・筆記試験を実施する場合があります。
- 2) 学内審査合格者のみ入国管理局へ在留資格認定証明書の交付申請を行います。
- 3) 在留資格認定証明書交付後、入学金及び学費を入金してください。
- 4) 入金確認後、在留資格認定証明書を発送します。各自で日本大使館等へ査証を申請して下さい。
- 5) 査証発給後、上記入学日までに入国して下さい。

<提出書類について>

申請者・経費支弁者は、書類一覧をよく見てそれぞれ必要な書類を用意して下さい。

*各書類は、申請者・経費支弁者または当該書類発行担当の者が必ず直筆で記入して下さい。

*母国語で書かれている書類については、日本語訳文が必要。A4の白紙に訳文を書き、訳者の氏名、所属機関を記入して下さい。





提出書類一覧

I 申請者の提出書類（*マークの書類は本校指定様式有り）

提出資料	注意事項
① 写真 8 枚 (4cm × 3cm)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正面撮影で 3 ヶ月以内の証明用写真。裏面に氏名を記入。
② 戸籍謄本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族全員の記載のあるもの
③ パスポートの写し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身分事項欄及び日本への出入国記録ページ
④ * 入学願書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必ず申請者本人が記入。
⑤ * 履歴書 ※経歴空白説明書 (必要な場合のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必ず申請者本人が記入。 ・ 正式な学校名、入学年月日、卒業年月は卒業証書などを確認して必ず正確に書く。 ・ 経歴に 3 ヶ月以上の空白がある場合は何をしていたかを別紙に説明。
⑥ * 就学理由書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の目的・経歴・進路・将来どうしたいかについて具体的に記入。 * 説明が具体的でない場合、書き直しをお願いすることもあります。
⑦ 最終学歴卒業証書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終学歴の卒業証書の原本 * 高校在学中の者は、卒業見込み証明書。 * 高等教育機関在学中の者で中退して来日する場合は、a , b の両方を提出。 a) 高校の卒業証書 b) 大学等の在学証明書
⑧ 最終学歴成績証明書 * 進学希望者のみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終学歴在学期間中全ての成績証明書を提出。
⑨ 日本語学習証明書 * 学習歴のある方のみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在学期間・既習時間数・成績・出席率等明記したもの。 ・ 学校名・代表者名・記入者署名及び学校印のあるもの。 * 日本語能力試験（（財）日本国際教育協会/ 国際交流基金主催）またはJ.test(日本語検定協会主催) を受験、または受験を予定している者は、下記を提出。 a) 合格者は日本語能力認定書のコピー、不合格者は成績通知書のコピー b) 受験予定者は、受験票のコピー
⑩ 在職証明書 * 在職中の方のみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ レターヘッド使用で職務内容の明記のあるもの 在職証明書（代表者名、発行者名、社印があるもの）と会社の営業許可証の写し。 ・ 帰国後復職する者は、復職証明書。





II 経費支弁者の提出書類（*マークの書類は本校指定様式有り）

提出資料	注意事項
① * 経費支弁書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経費支弁者が学費・生活費の支弁金額及び支弁方法を明記し、サイン・押印する。 ・ 経費支弁者が申請者との関係を具体的に記入。
② 残高証明書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経費支弁者名義の残高証明書
③ 在職に関する証明	〈会社員の場合〉在職証明書（社印・代表者印があり住所・連絡先の記載があるもの）
	〈会社経営者または役員の場合〉法人登記簿謄本
	〈自営業の場合〉営業許可証または取引関係などの書類
④ 所得に関する証明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公的機関発行の所得納税証明書（直近1年分）
⑤ 申請者との関係に関する証明 ※親族以外の場合	〈志願者本人又は志願者の父母との間に商取引がある場合〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 志願者本人又は志願者の父母の会社の法人登記簿謄本 ・ 会社概要(会社のパンフレット等) ・ 海外送金証明書（振込先、銀行印のあるもの）等
	〈志願者本人又は志願者の父母との間に合併関係がある場合〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人登記簿謄本（営業許可証） ・ 資本出資率の証明書(本政府発行の外貨証券取得届出書の場合、公証書は不要) *その他の場合は、相当厳密な関係のあることを説明する資料

注意事項

以下の書類や資料では無効になりますのでご注意ください。

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| (1) 必要記載事項に記入漏れのあるもの。 | (4) 記載内容に間違いのあるもの。 |
| (2) 文書作成者の記名・捺印のないもの。 | (5) 書類の発行日が3ヶ月以上前のもの。 |
| (3) 適正な訂正手続きが踏まれていないもの。 | (6) 記入者本人の直筆でないもの。 |

* 訂正は二重線に捺印をお願いします

*学費等の納入について《コミュニケーション学院規定》

- 1) 入学審査料： いかなる場合でも返金いたしません。
- 2) 入学金： 在留資格認定証明書交付後に入学を辞退する場合、入学金の返金はいたしません。
- 3) 学費等(学費は基本的に年一回払いとなります)
 - ・ 在留資格認定書交付後、日本大使館/領事館でビザが不交付の場合、審査料と入学金を除いた全納入金を返金します。領収書及び日本大使館発行の不交付通知を提出してください。領収書及び不交付通知のない場合は、返金できませんのでご注意ください。
 - ・ 在留資格認定証明書交付後、日本大使館/領事館でビザの申請をしなかった場合、領収書及び在留資格認定証明書の返却をもって審査料と入学金を除いた全納入金を返金します。領収書がない場合は返金できませんのでご注意ください。
 - ・ ビザが交付されたにも関わらず本人の事由で入学辞退の場合、入学許可証の返却を以って審査料と入学金を除いた全納入金を返金します。
 - ・ 返金規定は、財団法人日本語教育振興協会維持会員校協議会制定『*日本語教育機関による留学生の受け入れに関するガイドライン』に則ります。



【修了生の声】

この10ヶ月たくさんの方のことを学んだ。もし私が台湾で日本語の勉強を続けていたら、多分今の私は日本語を話そうと思ってても口が開かなかっただろう。だから、日本で勉強する経験があってよかったと思っている。

学校の先生方はいつも優しく、私たちに色々な知識や日本の文化を教えてくれた。日本に来た時、私の日本語のレベルは50音がわかるくらいだった。だから、先生の授業は謎のような未知の言語で、聞いても9割はわからなかった。とても緊張した。しかし、私はずっと自分で自分に「難しいことはない。(自分が)それをしないだけ。」「失敗の恐れがあるからといってやらなければ成功はしない」と言い聞かせている。だから心配しないで、何でもやってみて。学習している間は皆に笑われても大丈夫。言語とは話さなければ自分のものにならないものだと思っている。自信を持って頑張ろう！



私が日本に来る前、色々な心配でいっぱいでした。ふるさとじゃない国で外国人の私が本当にうまく生活できるのか。他の国の人と友達になれるのか。もし問題があったら誰が私を助けてくれるか・・・など。でもコミュニケーション学院と出会った時、それは余計な心配だと分かりました。クラスメートと笑ったり真剣に相談するうちに友達になって、優しい先生たちのおかげで日本語の実力も自分でも実感できるくらい成長しました。あっという間に3ヶ月がすぎて、授業最後の日。私がコミュニケーション学院からもらったのは修了証書だけではありませんでした。世界の色々な国から来たたくさんの友達。問題に直面した時、助けの手を差し伸べてくださった先生方。他国の生活で疲れた心を触れあいながら第2の家族になっていく寮の仲間たち。絶対忘れない、数えないくらいの思い出。修了証書と共にいただいたこのすてきなプレゼントは私の宝物になってこれからの人生を生き続ける力のひとつになるでしょう。一生大切にしながら生きていきます。皆さん、ありがとうございました。おおきに！

神戸の街を訪れる人とコミュニケーション学院で勉強しようと思っている人にメッセージを送りたいと思います。私が日本で滞在した時間の中では一番良かった時期でした。なぜかと言うと、コミュニケーション学院でたくさんの友達を作ることができたからです。日本語だけを教える学校ではないからです。世界中の人と触れあいながら、様々なことはここで学べる、それがとても大事なことだと思います。国へ言語知識と共に友達との思い出を持ち帰ることはとても重要だと思います。また、神戸の街はとてもきれいだし、非常に暮らしやすいから、可能だったらこの町にまた住んでみたいです。これは私のメッセージです。ありがとうございました。



コミュニケーション学院の先生と学生はみんなやさしくてとっても熱心だ。初めて来た時、とっても寂しかったけど、友達と先生は私を気にかけてくれた。活発な授業で、先生の教え方は私たちにとって分かりやすかった。他の国の学生もたくさんいたので、日本語で話をしなければならない場面が多かった。それによって、私の日本語は進歩した。課外活動もたくさんあった。本当に楽しかった。台湾に帰るのはちょっと悲しい。将来、また日本で勉強するなら、必ずコミュニケーション学院に来たい。

